

令和6年産大崎地域の 子実用とうもろこし情報(第1号)

令和6年3月27日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL: 0229-91-0726 FAX: 0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

1 播種前に

- とうもろこしは湿害に弱い作物です。排水性の良いほ場を選んでください。サブソイラやプラウで排水性を高めたり、明渠・額縁明渠を掘るなど排水対策をしてください。なお、明渠は確実に排水口に接続しましょう。
- 牛糞堆肥の施用量は、10a 当たり1～2 tを目安にし、また、施用する堆肥は切り返し等により腐熟が進んだものを散布しましょう。
- 播種床の仕上がりは苗立ち率や除草剤の効果に影響します。砕土は、直径2 cm以下の土塊が全体の70%以上となるように行ってください。

2 播種作業

- 播種時期は、4月中下旬播きを基本としてください。
- 栽植本数は7,000本/10aが目標です。
- 目皿式播種機で播種する場合は、3 km/h程度の低速走行で、丁寧な作業を心掛けましょう。
- 播種深度は3～5 cm程度で正確に播種しましょう。
- 播種機は適正なサイズの目皿やギアを設定し、播種開始時には、設定した種子量が確実に落下していることを確認しましょう。
- 播種後に鎮圧を行い、種子と土壌を密着させることで発芽が安定します。また、除草剤の土壌処理効果が十分に発揮できます。

3 雑草防除

- 雑草が繁茂すると、とうもろこしの生育に影響するだけでなく、カブラヤガ(ネキリムシ)やイネヨトウなどの害虫の発生源となります。
- 土壌処理剤と茎葉処理剤の2回の除草剤散布による防除を基本としてください。
- また、連続欠株や生育不良箇所を作らないように、排水対策と苗立ちの確保を心掛けましょう。

◆◆◆◆◆春の農作業安全確認運動実施中(3月1日～6月30日)◆◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用、③トラクターへの安全フレーム・安全キャブの使用の呼びかけを行います。

重点推進テーマ 「徹底しよう! 農業機械の転落・転倒対策」